

特集 あの子に この子 子どもの個性への接近

「夢」と「困る」

——子どものイメージ運動を停滞させる意識——

小林照子

1 はじめに

我々が「個性」研究に求めるものは、天才の発見でもなければ個人差の判定でもない。そのねらいは人間の本性、生きる力としての「個性」がどのように育っていくのかを見極めるところにある。そのために「夢作文」では子どもの活発なイメージ運動に出会うことができた。そこからは、夢と現実とが未分化でイメージの誘引性の強い低学年、夢を現実的に扱う中学年、そして夢の誘引性を楽しみ、夢に自分の意識を見る高学年、といったイメージ運動の発達筋道までも浮かび上がってきた。

このイメージ運動の発達の筋道をより確かなものとするための傍証として「困る作文」を採集することにした。「夢作文」が活発なイメージ運動を引き出す糸口であったのに対し、「困る作文」はイメージ運動が停滞している状態を引き出す糸口だと言える。子どもは一体どんなときに困るのか。イメージ運動の停滞をどのように感じているのか。このような視点から子どものイメージ運動をとらえることにより、夢作文で得た結果の検証を試みたいと思う。

2 調査方法および整理の仕方

作文させる際の問いかけとして次のような発問を用意した。
「あなたはどんなことでこまりますか。こまったあなたの気持ちを書いてください。」
作文調査の際の発問には毎回神経を使っている。子どもは感度の優れた共鳴体なので、よほど注意しないと、本根を捨てても教師が望む音色で答えようとすることである。我々が行う調査では、文学性の高い作文や構成力の優れた作文を書かせることは期待せず、あくまで本根の作文、感じたままに、思いついたままの生の声を求めてきた。「穴作文」や「夕日作文」のように「穴」「夕日」といった言葉が、子どものイメージ運動を起こす引き金になるような場合は、前置きや説明なしで、「このことは聞いて、今心の中に広がった思いをそのまま書いて下さい。」と問いかけた。しかし「困る作文」の場合、「困る」だけでは「こんなことで困った」「あんなことで困った」という、経験の羅列に終わってしまうのではないかと思われたので、前述のような発問を用意することになったのである。子どもたちが困る状態に陥るきっかけ、困る状態の心の動きを書きつけてほしいという期待のもとに調査を行った。

3年生 (一二三名)	横浜 名瀬小	三六名
	東京 八王子第六小	六六名
4年生 (一〇二名)	広島 栗生小	二二名
	茨城 六郷小	二三名
	東京 八王子第六小	三三名
	東京 私立聖徳学園小	二一名
5年生 (一四〇名)	東京 私立相模女子大小	二五名
	東京 笹塚小	三四名
	東京 私立聖徳学園小	三〇名
	川崎 東小田小	四一名
6年生 (一七〇名)	高知 鴨田小	三五名
	茨城 六郷小	四一名
	東京 私立玉川学園小	八〇名
	東京 私立聖徳学園小	二一名
	山口 三井小	二八名
以上のような調査方法によって採集した作文を分析するにあたって、まず五三五の作文を三回以上は通読するこ		

とにした。通読している限りにおいては子どもの不平不満、怒り、悲しみといった感情に圧倒されてしまった。これは正直な感想である。夢作文から伝わってくるようなエネルギーな生命力はなく、大人に苦しめられている子どもの姿、対人関係に悩む子どものため息であふれていた。読めば読むほど子どもが可愛そうで気の毒に思えてきて、分析作業への気力がすっかり萎えてしまった。こんな経験ははじめてである。もう一度「夢作文」を読み直し、また「困る作文」を読み返すうちに、こういった子ども達のため息こそ、我々が求めていた資料だったのだということが見えてきた。つまり「困る作文」を書かせた目的は、子どものイメージ運動が何かによって停滞もしくは停止に追いやれた際の心の状態と、その何かを探ることであった。

子どもの生活の本流には、知識や経験以前のイメージ運動があることは「夢作文」の分析で再確認されたことだが、ここでは、もう一つの生活力として、現実との対面を見ることができ。すなわち「困る作文」に書きつけられているのは、その子どもの処理能力を超えた現実の数々だとも言えるからである。

子どものイメージ運動を停滞もしくは停止に追い込んでいるのは、大人であると同時に子どもの意識でもある。「困る作文」の通読をくり返しているうちにそういった子どもの意識として、九つのポイントが浮かんできた。

1 対人関係 2 時間 3 空間 4 技

能 5 喪失・欠損・破壊 6 定義 7 情動 8 生理 9 現実処理以外のもの
改めて五三五の作文を読み直し、九つのポイントを拾い出すことによつて、子どものイメージ運動の実態を探ってみたいと思う。

3 子どものイメージ運動を停滞させる意識

へ人と人との間で困る

3 年男子 八王子第六小

ぼくは、おとうさんにおこられたとき家中にげまわって、こまっ
たと思いました。

3 年男子 栗生小

べんきょうをよるにするときにお母さんがおこるからこわい。いつもこわいからちゃんとしてようと思う。

3 年女子 名瀬小

お父さんとお母さんが、けんかをするときがこまる。りゆうはりこんになるかもしれないから。

4 年男子 八王子第六小

ぼくのこまることというのは、お母さんとかにおこられて、お母さんの気げんをもとにもどさなくちゃ、とか思っている時です。

このような例の数は多く、5年生になっても6年生になっても無くならない。家の外に出されたり、夕食を取り

上げられたり、ぶたれたり。それらの行為が愛の鞭であることを信じたいが、いくら愛があっても、子どもにとってみれば困るのである。子どもを困らせる大人として、両親に次いで先生、祖父母と数多く見られたが、6年生の中には世の中の大人を指してオジタリアン、オバタリアンを批判するものもあった。

3 年女子 八王子第六小

わたしがとってもこまっていることは、M君やK君がすぐ人の物をとることで。M君はそれみせてといってみせてあげるとすぐぬすんでしまったりとったりするのでわたしはとてもこまります。K君はとることが多いですがそれだけではなく、わたしがなにかをいうとたいたりけたりうるせいなあとこのです。それにK君はM君みたいにみせてというんじやなくて、ヘーイヘーイとかかかってにぬすむのでわたしはそれがこまるのです。だからせきかえをする時、K君やM君のそばだったりおなじはんになりたくないのです。

3 年男子 八王子第六小

ぼくは、いつもN君になんにもしてないのにN君が、ふでばこでぶつたいたからこまっている。

5 年男子 笹塚小

いつも、T君とかが、ほんのちょっとのことでおこって、ぶつたりけつたりわる口をいわれたりしてとてもいやです。それにT君は、ぼくよりもすごいへましているのに、自分のことは、かんがえず人のことばかり、いつてくるからとてもいやでした。いわれた時は、こんなやつとは、しんでもあそびたくはないと思いました。

5 年女子 笹塚小

私のこまる所、性格の悪い所で。友達に、さっきまで遊んでた人の悪口を言われると、いっしょになつて言つて、また遊んでた人と会つと、「さっき悪口言つてたよ。」とつげ口したりする。
このままでは、友達がいなくなっちゃうかもしれないけれど、どつちのみかたをすればいいのかなどよく考えたり、どうすれば直るかなども考えたりする。

3年生では実名が多く、その子が「とつた」「ぬすんだ」「ぶつた」「けつた」と、被害者意識が前面に表われている。それが4年生以上になると実名は少なくなり「友達」「言った人」「むこう」といった表現が多くなる。これは主観から一歩踏み出そうとする意識の表われではないだろうか。その点からすると、ここに掲げた5年男子の例は、5年生としては少々幼稚だと考え

なければならぬ。5年女子の例のように人と人との間における自分のあり方を冷静に考え直している例は6年生に多い。友達関係で困る例は数多く、子ども達の意識広がりを見張る思いである。

4年男子 八王子第六小

ぼくにとつてこまるということ
は、しつぱいをしたときだと思
います。たとえば、一人とやくそ
くをしていたのにもう一人とやくそ
くをしたときです。そうゆうとき
は、すぐあせつてこまりました。

3年女子 栗生小

友だちとけんかしたとき、自分
からあやまればいいのかわからな
いし、どうやってあやまればいい
のかわからない。

4年女子 八王子第六小

友達関係でこまる時もありま
す。友達だからこれぐらいいつて
もへいきだろうと思つていつたら
けっこうきずついたりしちやつた
こともありました。いっしょうけ
んめいにうそつていつてもゆるし
てもらえない時はだんだん自分で
むかついてくると思います。

5年女子 鴨田小

仲よしの人と気まづくなつた
時。なかなか声をかけられなくて
ただ、むこうが言ってくるのをま
つだけ。

6年女子 玉川学園小

私が男子とおしゃべりしている
と横から「男好きだね」といわれ
るのも困ります。しゃべっている
のがいけないみたいになつてしま
うし、両方で、気まづくなつてし
まうからです。

6年女子 玉川学園小

私の困る事は、そんなことあり
もしないのに変なうわさを流され
ている事です。前もいろいろなこ
とを、しゃべられて、先ばいにい
じめられた時がありました。現に
今も、新しいうわさが流れていま
すし、本当にうわさというのは、
いやな物です。

6年男子 玉川学園小

ぼくが一番困ることは人助けを
しようと思つてもできないのです。
これは席をゆずれないという事
ではありません。バス停でおばあ
さんが座っていました。すると変な
おじさんが来て、たばこをすい始
めました。するとおばあさんの方
に風がふいて、たばこのけむりが
おばあさんにあたつてむせました。
それが何回もくり返されて、コン
コン言い始めました。おばあさん
がかわいそうだったので言おうか
と思つたのですが、服もチンピラ
っぽいおっさんだったのでできま
せんでした。バスが来ておばあさ
んは、そそくさと上がつていきま
した。たばこをすうのは勝手だけ

ど、周りの人の事も考えてすつて
もらいたいです。

女子の例が多くなつてしまつたが男
子でも同様であつた。最初の例は二重
約束を「失敗した」と言い切つてい
るのだが、これと同様の例は3・4年
に多く、5・6年では見られなかつた。
3・4年の子どもが約束を大切に考え
ていること、約束に責任を持つてい
ることがよくわかる。人間関係の基本は、
一対一の心の交流にあるということな
のだろう。続く3・4・5年女子の例
もそれを証明している。6年生になる
と、意識は一対一の関係に留まらず、
学級集団、学校集団、さらには町で出
会つた見ず知らずの人々といった社会
に広がつて行く。悪口、陰口、うわさ
といったコミュニケーションが人間関
係に及ぼす力を感じ、困つてい
る。

次に掲げる例からは、そこに集ま
つた人間関係が生み出す雰囲気、その雰
囲気に自分が合うかどうかということ
までもに氣を使つていることがわかる。

6年女子 玉川学園小

私はクラスの女子との話につ
いていけません。それは、みんなテ
レビを沢山見るからか分かりませ
んが、タレントやテレビの話ばか
りなのです。——中略——なるべ
く女子の話についていくようにし
ているのですが、どうしても全然
ついていけません。だからどうし
てもみんなより、はずれてしま

ます。それでどうすれば良いか今
なお考えているのですが全然分か
りません……。

4年女子 相模女子小

私はこんな時こまります。なけ
ればならないものがない時、それ
から道なんかわからなくなつた
とき。それから、自分がとんでも
ないことをやらかしたときとか、
その場のふんいきが自分のせい
でしられたとき。人からあずかつた
ものをなくしちやつたり、こわし
たりしたときもこまる。『こんな時
は、だれがなぐさめてくれるも、
はげましてくれても、頭の中は「困
つた」のこぼだけ。あなたはど
んなときこまる？

6年女子 六郷小

学校でないていて、なきやんだ
とき、たちなおつていのに、ど
うゆうふうにして、みんなに「あ
う」というか。

そして人間関係に敏感であるだけに、
社会の大人たちの無神経さも氣になる
のである。

もう一つ、集団と自分とのかわり
から生ずる意識として見逃せない例が
ある。

5年男子 鴨田小

みんなは、できているのに、で
きなかつたらなんか気持ちがおち
つかなくて、おいていかれるよう

な気持ちがある。

4年女子 八王子第六小

私のこまることは、自分がふと
っていることのみです。——中略
——なんで、このことだけがこま
るといふのは、自分でもよく分か
らないのですが、ただ、みんなが、
ひょうじゅんどうりやせているか
らです。自分もひょうじゅんにな
りたいと思っているから、やせよ
うと思っていますのです。

標準、平均、に対する意識は、4・
5・6年に見られた。思考力の発達に
伴い、比較の方法が高度になるのは結
構なことだが、それが価値観に結びつ
くことだけは避けたいものである。こ
んなことで困ってほしくない。

子どもが「困る」として対人関係を
書いた例は、九つのポイント中一番多
く、三十八例もあった。学年内順位で
も、3年と6年が圧倒的一位、4年と
5年は情動や技能に首位を譲って三位
となっている。

人と人がぶつかり合う以上、イメ
ージ運動が停滞もしくは停止せざるを
得ないのだろうか。しかし、これは共
鳴が起こる際の一瞬の摩擦者で、次に
は必ずハモニーとしてのイメージ運
動が起こるはずである。個性の一人歩
きはありえない。一人の子どもが生き
て行く間に会おう数多くの人々の中か
ら、その子がどんな人を選び、その人
とどのようにかわりあうかによって、
一人の子どもの個性が育まれて行くの

である。共鳴し合うイメージ運動を探
ることは今後の課題として考えておき
たい。こんな風に考えるのも、三十八
例の一つ一つが、真剣に相手を考え、
自分を考えていたからである。

へできないと困る

「対人関係」に次いで多く見られたの
が「技能」で、「できなくて困る」「わ
からなくて困る」といった例の数々で
あった。全体では二八四例。学年内順
位では、5年で一位、6年と4年で二
位、3年で三位となっている。「作文
が書けない」「算数の問題が解けない」
「知らないことを聞かれても答えられ
ない」「宿題がむずかしい」「テストの
点数が悪い」と、学年の別なく「でき
なくて困る」が多かった。

「技能」には及ばないが「喪失・欠損
・破壊」の例も多く、二一二例であっ
た。「だいたいなものをなくしちゃった
とき」「人からあずかったものをこわ
してしまったとき」「わすれ物をした
とき」「お金を落としたとき」と、ど
の学年も同じような内容で困っている
という点では、「技能」で拾った例と
共通している。

5年男子 聖徳学園小

ぼくが一番こまったことは、定
期けんをなくしたことです。なく
したのは今年の三月ごろで落とし
たのはTAPのかえりでした。そ
のときでんしゃにのろうとして定
期けんをさがしたのですがなかつ
たのです。こまったぼくはTAP

にきました。しかし定期はあり
ませんでした。だからぼくはしか
たなくかえることにしました。お
金は先生からかりたのです。ぼく
は家にかえってからお母さんにい
うとすぐおこりました。その月
はどうしてもごはんのどをと
りませんでした。その日から一カ
月ぐらいいして定期はみつかりま
したが、いまでもそのことをわすれ
れません。

4年女子 八王子第六小

今、私のこまっていることは、
このごろテストの点が悪いこと
です。それをこまっているのは私だ
けでなく、お母さんもこまってい
ます。私にとって、お母さんがこ
まったかおをするのがもっとこま
ります。

この例のように、できなくて困るこ
とよりそれに伴う対人意識の方がも
と困るというものが少なくなかった。
子どもは「できない」「わからない」
「なくしてしまった」というだけでも
困っているのだから、それに追い打ち
をかけるような行為は、大人として慎
しみたいものである。

それにしても勉強がわからなくて困
ると言う子が多いことに現場教師とし
ての責任を感じている。勉強といっ
ても、思考力を鍛えるものも、イメ
ージ運動をより活発にさせるものもあるの
だが、どちらにしても子どもの体感に
あった学習課題ならこうも困らないの

ではないだろうか。ましてやその年令
の子どもが持っている興味、知識欲に
合った学習課題なら難しくても楽しめ
るのではないだろうか。学習活動が子
どもにとって困ることはかりでは本
当に困る。

へ迷子と遅刻に困る

対人関係であればどこまで困ってい
る子どもでも、「時間」「空間」に困る
例は少なく、時間は三九例、空間は九
〇例であった。

数少ない時間の例の中には、「バス
に乗り遅れて困った」「約束の時間
間に合わなくて困った」という「遅刻」
の類と、「待つ時間が多くて困った」
「時間を見たら2時間ぐらいたされ
ていました」という「待ち」の類とが
見られた。その他に「遊ぶ時間がない」
「遊ぶひまもない」といった例があっ
た。こういう子ども達は睡眠中の夢で
しかイメージ運動を活発に働かせるこ
とができないのではないかと、不安に
なるような例である。

空間では九〇例のほとんどが、「迷
子になって困った」あるいは「家に入
れなくて困った」といったものだった。

6年男子 聖徳学園小

ぼくが四年生の時だった。学校
から帰って一カ月前ぐらいに新ち
くした家に入ろうとしたが開かな
かったのだ。ドアが。ぼくが朝、
家を出る時カギをもっていくのを
忘れてしまったのだった。ぼくは
裏口ではなく表のドアへ回ってみ

たがまだドアは作っていないかったのだった。ぼくは困った。そしていちかばちかがんばってへいをのぼり庭へ入った。庭からのまどを全部しらべたが開いていない。本当に困ってしまったぼくは更に考え、待とうかと考えたが、今日はお母さんや弟達もおそい日だ。これから待つとするとあと三、四時間待つことになる。ぼくはや々とひらめいたが、ちょっと危ないと思いやめようと思った。そこで救いの者がくるまで十数分まったが来るはずがない。しょうがないから危い事をやるしかないと思っただ。その方法はまず二階のひさしに通じる木に登り、そこからひさしに立って二階のまどから入ろうというのだ。まず木に登った。そこには簡単に登れたが飛び移るのが困難だった。まず父母の部屋のまどを見てみた。しかしロックがしていた。次に徹也の部屋、やはりだめ。そして孝敏の部屋を見た。「ヤッター」

まどが開いていた。くつをぬぎやつと部屋に入った。危険と言えば危険な冒険をして大義だったような気もちになった。こうしてぼくは何事もなく家に入れたのだ。めでたしめでたし。

子どもにとって家の中というのは、最も安心できる生活空間なのだろう。物理的には、壁一枚で隔てられた空間でしかなくても、内にあることと外に

あることとの差は大きい。家に入れないで困ったことを書きたいくつかの作文の中で、そのことが詳しく、また生々と書かれていたのがこの6年男子の例である。困難な課題を解決するため、の試行錯誤を「冒険」と呼んだり、最後を「めでたしめでたし」で結んだり。過去の経験が実に楽しそうに書かれている。同じ6年生でも「対人関係」で困る場合とはずいぶん違っている。

またこの例では、イメージ運動の停滞に際して思考活動が活発に行われているという点でも興味深い。「どうしよう」「いらいらしてしまふ」「なきそう」といった言葉はなく、「やるしかない」と言い切っている。6年生になると、感情と思考とを区別することもできるようになるということなのだろうか。

5年女子

聖徳学園小

この話は、何かはわすれましたが、なにしる小さい頃のことです。ですが、ようち園生だということとは、たしかです。

私と母がデパートへ、行きました。(何か目的があつて行ったのですが、わすれました。)そして、しばらく歩いたあと、私と母は、デパートの中のアイスクリームやへ、入りました。すわって食べました。ところが、そのアイスクリームは、シングルだったのですが、小さいから一つは、食べられませんが、しかもそのアイスクリームは、一つがとても大きかったのです。

食べていると大きいから、コーンの下の方から、水みたいなの、ものがたれてきて、心配になり、「お母さんこの水なに?」ときくと母は、

「ほらぐさぐさと食べないのが、わるいんでしょ!」といって、私の手から、アイスを、とってティッシュペーパーを、まいてくれました。それでもたれてくるので、私は、

「もつとまいて。ねっ、ねっ。」といったんですけれども、これいいじよう「だめ!」とでもいうように、顔をしかめて、捨ててしましました。そして、

「あとでまた買ってあげるから。もつと小さいのを売っているお店で……」といって、出ました。

そのあと、目的の場所へ、つきましました。ところがついたのに、母がいません。どうしたのか、見まわしましたが、おぼさんの山で、わかりません。それで、あるおぼさんが、私のことを押したので、くるしくて、かけ足でにげました。するとあるおねえさんがきて、

「お母さんか、お父さんは、どこ?」ときいたので、

「わからない。どっかいっちゃった。うっうっう」と泣いてしまったので、そのおねえさんは、「まいごのよびだしをしなくちゃ!」と言って、まいごの呼びだしをする、受け付けへ、行きました。そして、受け付けのおねえさんは、

「お名前は?」ときいたので、私は

「上原悦子です。」と言うと、おねえさんは、「まいごのお知らせです。白のブラウスに、ピンクのス

カートをはいた上原悦子さんが、一階受け付けでお待ちです。まいごの上原悦子さんのお母さん、急いで一階受け付けまで、来て下さい。」なんて言ったものだから、困ってしましました。普通、母が困るはずなのにへんだと思います

が、困ってしまつて、待っていると、母が息を切らしながら、走ってこつちに来ました。そして私が母にとびついて、しましました。

「ありがとうございました。」と母が言つて帰りました。私は、車の中でも泣いていました。私はこれほど困ったことは、ありませんでした。

長い長い迷子の話である。幼い頃の思い出の再現であるために、アイスクリームが溶けて困っていることも、泣きが止まらずに困っていることも切り離すことができないのであろう。今まで掲げてきた例はどれも現実と対面する意識であったが、この迷子の例は言い尽せないもの、すなわちイメージ運動が伴っているせいではないだろう。

〈困ると泣きたくなる〉

迷子の例では二度泣いている。その

うちの「私は、車の中でも泣いていました。」に注目したい。もうお母さんに会えたのだから、事件は解決したはずなのにまだ困っている。子どもが感じている迷子は「一緒」か「別々」かといった事実ではなく、イメージに誘引された異空間でさまようことなのだと、考えさせられる例である。とはい

え、我が子が神かくしにあったと言わんばかりのうろたえ様を思うと、母親も共に、異空間を感じているのかもしれない。この例によって、日常生活の中でも、現実意識とイメージ運動とがぶつかり合うだけでなく、イメージ運動が現実意識を飲み込んでしまうような場面もあるのだということが確かめられた。

「困る作文」には情動を表わす言葉が数多く書きつけられている。「情動」は、九つのポイントの中でも「対人」「技能」に次いで多く、全体で二七七例であった。学年内順位は4年生が圧倒的一位、3年生と5年生が二位、6年生は四位だった。

「困る作文」に見られた情動はどの学年も同様に片寄っていた。それらを総括すると「泣きと怒り」になる。こんなところで、我々が児童の言語生態研究13号で取り組んだテーマに再び出会うことになったわけである。

3年男子

栗生小

●おじいちゃんとおばあちゃんがけんかをするとき、なきたい気持ちになってしまいます。

●計算ドリルで一もんでもちがうとすぐくぼくをおこるので、ぶつ

たたいてやりたい気持ちになります。

●おじいちゃんがお酒を飲んでぼくがねているときにおもいつきり大っきい声をだすから一ぱつかましてやりたいです。

●おじいちゃんがおこっているときやつあたりをするのでぶんなかしてやりたいです。

四項目に分かれてはいるが、興奮のうずに入り込んでいるという点でどれも共通している。同じような例は4年生5年生にも多い。

3年女子

八王子第六小

こまったら、しんぞうがドキドキしちゃってこわくなつてしまふ。しらないまにこまっちゃって、こまると考えて考えると考えがまとまらない。そしてこまると、かなしくなっちゃって、こわい。それで、もしかしてこまっているときになしくなるから元気をだすとまたまたこまっちゃう。

4年女子

八王子第六小

私は、こまると、そのことのでいっぱいになって勉強に、しゅう中でなくなつてしまふ。こまると、悲しくなつてしまふ。人に話されると頭にきてしまふ。

4年男子

八王子第六小

ぼくは、こまることがあると、あたまが、がんがんです。あー

どうしたらいいだろう。そうだが、ああしたらいんだ。こうしたらいいんだ。そんなことをかんがえているがうまくいかない。そのうちあたまのながむしくしゃする。そのうち人をなぐりたくなる。

ブットバシたくなる。そのうちてをたたきたくなる。そうするとほかのこまっていることがあたまにうかんでくる。ザーつとやっついてううちにいかりがおさまる。そしてあそびにいく。つまりぼくのこまるといのは、いろいろわるいことをかんがえてしまふこと。

5年女子

笹塚小

じゅくにいくと、いやなあだなをいわれる。

その時、とてもむしくしゃする。おまえがいわれたらどうするとか心の中で思う。いった人を、おもいつきりじめかえてやりたいと思う。言った人を、じゅくからおいだしてやりたいとか、こんなじゅくやめたいと思う。心のおく深くまできずつけられてとてもいやだった。

4年生男子の例では他の二例のように、いかりが個人に向けられていない。この他にもいかりを表わす言葉は多く、「ゆかをあしでふみならしておこつた」「どなりたい」「かつとなる」「言葉も出ない」「ばかやろう、うらんでやる」と、どれも過激である。困る状態をいかっているのか、いかりの

状態に入ること困っているのか。どちらが先かは不明だが、どちらにしても子ども達にとって、イメージ運動が停滞することは不快窮まりない状態なのということがわかる。

泣きを表わす言葉には「なみだがポロリと出てしまふ」「なきそうになつた」「なきたくてしょうがなかった」「ただなくだけ」「ないてしまひました」があった。児童の言語生態研究13号の仮説によれば、ここで子どもが流している涙は、現実によって壊されてしまった夢を甦らせるための浄化作用だということになる。

二七七例を学年別に見ると、3年生が四一、4年生が一〇八、5年生が六二、6年生が六六と、4年生の数が断突であった。4年生というのはどの学年よりも強く、イメージの停滞を情動で感じていると言える。

3年男子

八王子第六小

今日、一時間目のたいいくが終つたあと日君のあたまにぶつかつて、じぶんの歯でくちびるを切つてしまいました。血が止まらなくてどんだん血が出てきたから、とてもこまつてしまいました……。

5年男子

笹塚小

ほつべたのあざがあること。

4年女子

六郷小

朝、かみがたがきまらない時。

「こまった！ 時間がないわい！ うーん。」と、けつきよくさいしょのかみがたにする。

5年男子 鴨田小

なんかだいたいな時おならをしてこまる。

5年男子 東小田小

やさいが、たべられなくってこまっている。

6年男子 六郷小

夜あまりねむれなくて、朝ねむたくなつたとき困る。

6年女子 六郷小

トイレの便器に「ゲリベン」がひつついている時、そうじの時困る！

生理感覚として拾った例の数は八七と少なかったが、その中でも6年生の数が一番多かった。学年が進んでも生理感覚とイメージ運動とのかわりは切れない、ということなのではないだろうか。

〈困るとは後悔である〉

イメージ運動の停滞を情動で感じると同時に、「困るとは○○である」といった定義作りが活発になるのも四年生であった。前に掲げた4年男子の例でも、長々といかりを書いた後で「つまりぼくのこまるということは、いろいろわるいことをかんがえてしまうこ

と。」と結んでいる。

4年男子 八王子第六小

こまることは、自分にとって、「どうしたらいいのかな。」などと、考えこんでしまうことだと思ふ。今、考えてみると、「なんでこまらなくちゃいけないんだ。」と思っている。

いつどこでどんな時にこまるかによって、考え方もちがうし、その時のこまるがいなくなつた時、どうしてこまっていたんだろうななどと考えることもない。こまるっていつでも、ほんのいつしゅんの時もあれば、すごく長く考えることもある。でもそれは、もしかしたら、こまる時の時間は、みんな同じで、自分が、いつしゅんや長いと思うだけかもしれない。それに、考えることのないようにしても、長いことや短かいこともある。

こまるは、頭の中がそのことでいっぱいなこと、他のことは考えられない。もし、考えてたら、こまっていたことがわすれてしまふ。そのことしか、考えられない。

今までの例とは意識の仕方が違う。

自分にとって「困る」とはどういうことなのかと考えを進め、困った状態が長い短かいかは自分の思い方によって決まるということにたどり着いている。この例には、自分なりに困るの構造をとらえようとする意識が見られ

る。また「困るとは後悔である」と指摘した例もあった。

4年女子 相模女子大小

こまるというのは悪いことをしたあとにあんなことしなければよかったとあとでこうかいすることだと思ふ。私はせつかくやつた宿題をわすれた時「あつ」とどきつとする。そのあとでこまったなあと思う。私が今までで一番こまったと思つたのは、お父ちゃまとお母ちゃまがおおげんかをしたときに、どうしようこまったことです。こまるというのははらはらしたり、がっかりしたり、したことをいうと思ふ。

この例にも「こまるというのは……」

といったところに定義付けの意識が見られるが、その内容を見ると「はらはらしたり、がっかりしたり」と情動が中心になっている。四年生では、思考を進める際に感情が大きくかわりあっているということであろう。四年生で一四例あつた定義も、五年生には一例しか見られなかった。しかし六年生になると二九例と、四年生より多くの例を捨うことができた。

6年女子 玉川学園小

困ること、私たちはいつも「困つた、困つた」と思うことがありますが、深く困つたと考えることはなような気がします。もしかして自分がわからないうちに、「ど

うすればいいのか」と考え込んだことがあるかもしれません。人間は、なにもかもパーフェクトにできる人はいないと思います。一人、何かしら出来ないものはあります。例えば、勉強もスポーツもでき優しい心を持っていてみんなからはパーフェクトに見えても、うそをついたことのない人はいないでしょう。また、イエス・キリストも何もかも出来ても、うらぎられたということは、自分自身でも、まだ、不十分だったところがあるにちがいありません。私も、沢山出来ないことも、あるのだから「困ること」など沢山あるような気がします。

6年男子 玉川学園小

僕には困つたことや困ることはありません。あつたとしてもくだらないことばかりです。

6年生になると「深く困る」「くだらないことで困る」と、困るを評価するようになる。困るも現実処理だけで考えれば苦労がないということなのだろうか。困るの定義を考えるとどこか、「困らない」という例もあった。

5年男子 聖徳学園小

ぼくは、もしお金をわすれたら駅の人に貸してもらふ。そうしてそのかしてもらつたお金はこんどかえすのだ。そしてノートをわすれたらほか

の人に一枚かしてもらおう。
そう言うふうにかまったらときは
する。

5年女子 聖徳学園小

十月三十日十二時五十六分、今私は困っているが、それ以上に困ったことは、女子と一緒に帰る時バスに乗りおくれで家に着くのが、おそくなった時。でも、これはあまり困ったと言わないから、塾の宿題がたまっていて、その日は、ピアノの日で、全然できない時。これは、何かバカらしい。バカらしいといえど家にだれもいなくてかきもなくて、塾の時間がきたというのに行けなかった時。でも、このときは、本当に困った。

こうやって困ったことを考えていけば、十月三十日十二時五十六分に困っていた私は、十月三十日一時十四分には、全々困らないでいられます。

その時は困っていても後で考えてみればバカらしいと思えてくる。最後に時間経過をとり上げているところからも、困るを進行するイメージ運動上に位置付けて考えようとしていることがわかる。それは、次に掲げる6年生の例でも同様である。

6年女子 玉川学園小

私の最大の困ることと言ったら、全部学校にかんけいがありま
す。まず、いきなり先生に質問さ

れてわからなくなつてみんなを困らせる時です。この時はあせると同時に困ります。

このことから、困るということ
はあせることでもある、と思いま
す。困ればあせると、あせれば困る
のです。

それから、家ではふとんをたた
まなかったり、戸をあけなかった
り、部屋を片付けないまま学校に
行くと学校で、片付ければよかつ
たな、とか思つてしまい授業が全
然聞けません。この時も困るし、
家に帰つてお母さんのお説教の時
も、もちろん困ります。ところが、
おこられると思つて困りながら家
に帰つてもおこられない時があり
ます。そんな時は、困ったという
ことは一気になくなり、助かった
という言葉がでています。その時
の心の中にまだ少しだけ困つたとい
う気持ちが残っているらしく、
心臓が鳴りまわります。

困つたということは、どんなに
苦しくても必ずおわる、そしてふ
つうにもどれる。だから困つたこ
とをしないのはおかしい。だから、
困つたことをするのは悪くないと
思います。

「困る」ことの価値を見い出そうとし
ている。「だから、だから」と定義で
もたつていいるのは、後めたさのよう
な心のわだかまりがあるからではない
だろうか。実際、6年生には「自分に
とつて一番こまることとは、自分の行

動だと思ふのです。」といった自己反省
がいくつも見られた。

〈自分に困る〉

困るの定義を考えながら自己批判・
自己反省をしている例もあった。

6年女子 聖徳学園小

「こまる」と一言でいってもこま
つたにはいろいろな意味があると
思う。たとえば、

●友だちがうるさくて困る

●物をおとしてしまったので困る
の二つをくらべると友だちの行動
について述べたものと、自分の行
動について述べたものになるとい
つていいと思う。

私がこまる時といえはだいたい
が自分の行動に困るほうだと思
う。事実あまり、時間に正確なわ
けでもないからだ。一番困るもの
と聞かれたらやはり、一人の時な
どに大切なことを判断しなければ
ならないときでしょう。しかし、
本当に困ることとは私にはたくさ
んあると思う。なぜなら、一つ一
つ大切にまだ対処できるほど成長
していないからだ。
物事を対処するためにまだ幼
い精神面をきたえたいと思いま
す。

6年女子 聖徳学園小

私のこまる事というのは、まず
一つは私の性格です。
自分の性格というのは、他の人

から見るとどんなものでしょうか
？自分で言うときまず、ちよつと短
気で、小さな事ですぐ、カッとな
つてしまふのです。自分で気をつ
けようとしても、なかなかがまん
していられなくて、すぐなんか言
つてしまふのです。

「そんな事を言つてはいけません。」
と、思つても言つてしまふこの性
格、早くこの性格を直したいので
すが、ちゃんとがまん出来るよう
になるには、いつのことかまだま
だだと、思います。

もう一つ、こまる事は、すぐ顔
に出てしまふ事です。何でもない
のに赤くなつてしまつたりして、
自分で自分の事がいやになりそう
です。この二つこまることを、早
く直したいものです。

これらは過去の経験談でもなければ
泣き言でもなく、怒りの訴えでもない。
自分で自分の幼さを指摘したり、性格
を分析したりしているが、それだけに
留まらず、これからどうするべきかと
いうところにまで考えを進めている。
このような自己批判は四年生で見え始
めるが、五年生になると見られなくな
つてしまふ。そして六年生になると四
年生の時より多く見られるようになって
いる。六年生になると対人意識が急
激に広がり、情動はおだやかになつて
いることを考え合わせても、四・五年
生とは大きな違いがある。夢作文の分
析からも、六年生になると夢の中に自
分の意識を見ているのだという結果が

得られたが、これは六年生の困る作文に活発な自己批判が見られることと関係があるに違いない。

4年女子 相模女子大小

――前略――

でも、なにもかも、自分が悪い。そんなときは、(いいや。明日があるさ。)って思う。明日は、いい日だよねっ……てね。

6年女子 玉川学園小

――前略――

困ることの原因は、全部、自分です。困ることは、これからも、小さいことでも毎日一こは、できると思うから、それを解いて、困ることを、少なくしたいと思っています。

先に掲げた例も、この二例も、結びが未来に向かっていることに注目したい。困るがイメージ運動の停滞であっても、そこには新たな運動へのエネルギーが潜んでいるということなのだろ

〈夢と困る〉

「困る作文」の中には現実処理とは性質の違うものが少数見られた。その数は、三年生の二二、四年生の七、五年生の九、六年生の二十と、四・五年生に少なく、三・六年生に多かった。

3年女子 栗生小

そろばんで、むずかしくて、ど

うしようかと、思ってた今は、ゆう気と、悪いかいじんとで、たたかって負けている所です。

3年女子 栗生小

としよ室に本をかりに行って、

何日かたつて、かえしに行つたらだい本ばんが一つぜつたいなくなるのでとてもこまつて、なきそうになった時がありました。

それに、わたしは、手のほねをおつて、なおつたと思つたら、今度足がいたくなつて、なおつたと思つたらかぜをひいてしまったので、わたしは、どじでうんがついてないなあと思つた時がありました。今でも思う事があります。

この二例を読んでいると、「困る作文」の中に「夢作文」が入り込んだのかと思えてくる。この例では「だい本ばんがない」「足がいたい」という現実よりも、「またなくなるんじゃないか」「またいたくなるんじゃないか」という予感の方が先行している。低学年の夢作文がそうであったように、イメージの誘引性が強いということなのである。

次の例を見ると、イメージの誘引性が強いのは、低学年ばかりとは言えない。

6年女子 玉川学園小

今もそうですが、私の一番こまることというのは、けがのことです。いつもなにか、うれしい、楽

しい行事があるとけがをするのです。二年生の時は、体育祭の前に、左のひじを骨折して、出れなくなりました。そして、四年生の時は、私の好きなサッカーの授業の時に、足のねんざ。五年生の時は、三期のピアノの発表会前に骨折。そして、六年でねんざ。もう、けがばかりで困ってしまっています。

これは前に掲げた三年生女子の例に似ている。「けがばかりで困ってしまいます」と結んでいるが、これは後付けであつて、一番のこだわりは「楽しい行事があるとけがをする」というところである。予感が押えられないばかりか、予感通りの現実に出会ってしまったことが重なっている。イメージ運動の停滞から抜け出せないことを「困る」と言っているのだらう。

3年女子 名瀬小

わたしは、テニスとかをやつてもうすこしでおわりそうになったときに

「やめよ。」
といわれるとへんなきもちがしてやになるのでこまります。

この例では先行するイメージ運動が、外からの力で停止された状態を指して、それを「困る」と言っている。これこそ現実処理ができていない以前の、「困る」の実感なのではないだろうか。次に掲げるのは、現実とイメージ運動とが混乱してしまっている例

である。

3年女子 名瀬小

お母さんにおつかいにたのまれてやおやについて、おさい(お)のなかにおかねがはいっていきなかつた。どうしよう。こまつたなおもつた。お母さんにせつかつたのまれたからかわなくちゃ。でもおかねがなくちゃかえない(ん)だもんね。いったん(ん)かえつて、おかねをもつてきてかお(ん)。おかねをもつていったらよるになつてよるもしらずにやおやさんについたらやおやさんはあいていませんでした。

あいていなきややさいもかえないしいえにかいってもなにもたべれないからなとしようがなくかえりました。

まるで舵を失った船のようである。こうまでうろたえないまでも、我れを失う実感は六年生にも見られた。

6年女子 玉川学園小

もう一つ困る事は、自分が今、生きているのか眠っているか、死んでいるか、全くわからなくなる事です。これは私のくせなのです。が、たまに、木にとっしんしてしまつたりするのです。授業中だと、自分で顔をひっぱたいたりします。こんな時、「どうすればいいか」と困って、一人でやんでしまふのです。

今回の作文調査では少数であったが、このような実感はずいぶんよくあることらしい。先日も四年生と一緒に、あまききみこ作「白いほうし」を読むと、自分にも白昼夢のような経験があると答える子が多く、一担その話が始めると、教師がストップをかけない限り止まらないといった状態であった。現実処理以外のものとして「もし……」もあった。

6年女子 聖徳学園小

私は、去年の春休みにスキーにきました。そのとき、電車の中に、お弁当を忘れてしまい困ったことがありました。

しかしこの時は、サークルの先生方や、友達がいてくれたし、お弁当も新しくとりよせてくれたので、あまり難儀しませんでした。あつたとき、もし一人だったら、と考えてみると、きつと私は、一人で駅の内を走りまわっていてきつと一人で悩んでいて、おなかをすかせたまま、スキー場まで行っていたかもしれない。

もしなにかに困ったら、どのような場合でも冷静にしなければならぬと思う。そしてだれでも良いから、近くにいた人に助けを求めるように心がければ、大半の問題は解決できると思う。

この例は六年生に多く見られた自己反省とも違ふ。現実処理に留まらず、未来を見通した上で、自分のあるべき

姿を描いている。もう困つてはいない。未来へのイメージ運動を始めたことによつて、停滞の状態からは脱出することができたのである。

困る作文は自分についてだけでなく、人間について考えるきっかけにもなつたようである。次の例がそれに当たる。

4年女子 相模女子大小

「こまつたこと」がかい決すると、ほんとうに、ごく楽浄土にいる気分。そのあつたはうかれちゃつて、またこまつたことを作る。でも、人間つてそんなことをくりかえしながら生きていくんじゃないのかな。

6年女子 玉川学園小

——前略——このように困つた事はたくさんある。困つた事のない人なんて一人もないのです。困る事があるからこそ、いろんな事が生まれると思うのです。だから困る事を大切にしないではいけません。

これらの例を見ると、イメージ運動が停滞している間に、次に起こるイメージ運動が準備されているのではないかと考えてくる。ここまでで「困る」状態から脱出するために必要なのは、より優れた現実処理能力を得るよりも、イメージ運動を活発にすることが重要なのだということがわかつてきた。高学年の夢作文にはイメージの誘

引性を楽しんでいるような夢物語が見られたり、夢に自分の意識を見ているものが見られたりしたが、困る作文にも同じ事が言える。すなわち、高学年になると、現実処理をいかにすべきかということだけにこだわらず、未来に向かうイメージ運動を活性化することによつて、「困る」状態から脱出することもできるようにするということがある。人間はどんなときにも夢に生きることを忘れてはならないのである。

4 おわりに

今回の調査及び分析で明らかになつたことといえば、日常生活の中で子どもが直面している現実意識の数々であつた。大人からの圧力によつてイメージ運動を停止しているものもあつたが、それ以上に、子どもの現実意識の方が大きかつた。夢ではダイナミックにイメージ運動を展開していきながら、現実生活では、それ以外の方法で生きようとしている。子どもの言葉を借りれば、「ゆう気と悪いかいじんとで、たたかつて負けている所です。」ということになる。なぜ現実を「ゆう気」夢を「悪いかいじん」にしなければならぬのか。三年生ですでに「やらなくてはならない」といった課題意識が育っているからなのであろう。この戦いは「ゆう気」が勝つても解決はしない。「悪いかいじん」が実は「ゆう気の源」だつたということに気付かなくてはならないのである。このことに気付き始めるのは四年生、そして、戦いから脱

出し始めるのが六年生である。

困る作文に見られた意識の発達、夢作文に見られた無意識の発達と少々ずれがあつた。夢作文では、三・四年生で、現実が先行するようになるということだつたが、困る作文の三年生には、まだイメージの先行がはっきり見られたこと。夢作文の五年生では現実先行から一歩脱け出しているということだつたが、困る作文では、四年生から五年生にかけての大きな変化はなく、夢と現実とのぶつかり合いがはっきり見られたことが違つていた。困る作文ではイメージ運動の停滞期が五年生まで続いていたのである。

しかし、五年生から六年生にかけての変化は大きく、自己批判が多いばかりか、未来に向けての自己像といったイメージ運動を活性化することによつて、停滞期からは脱出できるようになつていく。この点は、夢作文の六年生に自己の意識が見られた点と共通している。「困る」の発達は、「夢」の発達より一歩遅れながら追い付いているということなのだろうか。

我々が「困る作文」に期待したものは、夢の中で夢が止まつてしまふ状態、すなわちイメージ運動そのものの停滞であつた。しかし予想以上に現実処理の含める割合が大きかつたため、イメージ運動を停滞させる意識を探ることになった。今回は低学年の資料がなかったため、現実よりイメージ運動が先行している段階での困るを探ることが今後の課題である。

児童の言語生態研究

●創刊号

子どもの連想と仮想と

●2号

子どもは「場」をどうとらえているか

●3号

国語の力「言語能力」とは何か

●4号

子どもにとって「書く」ということ

●5号

子どもにとって「うそ」とは何か

●6号

ことばをあやつることと、
ことばにあやつられること

●7号

子どもの感情の発達とことば

●8号

子どもの構えの変革とことば

●9号

用具としての言語学習のあり方

●10号

音声言語教育の方法を探る

●11号

子どものけんか

●12号

子どものなまいき

●13号

子どもの泣き

※1～10号を除き、残部多少あります。

＜イメージ運動を停滞させる意識チェックポイント集計表＞

37ページから続く

数字は例の数、()内はパーセント

分 析 項 目	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	合 計
現実処理以外のもの	22(18)	7(7)	9(6)	20(12)	58(11)
定 義	5(4)	14(14)	1(1)	29(17)	49(9)
対人関係	63(51)	52(51)	61(44)	142(84)	318(59)
情 動	41(33)	108(100)	62(44)	66(39)	277(52)
生 理	21(17)	12(12)	18(13)	36(21)	87(16)
時 間	7(6)	4(4)	11(8)	17(10)	39(7)
空 間	29(24)	9(9)	8(6)	44(26)	90(17)
技 能	38(31)	59(58)	83(59)	104(61)	284(53)
欠損・喪失	32(26)	47(46)	41(29)	92(54)	212(40)